

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を基盤にした授業づくり

～個の読みをつくる 光村図書4年物語文「一つの花」の実践を通して～

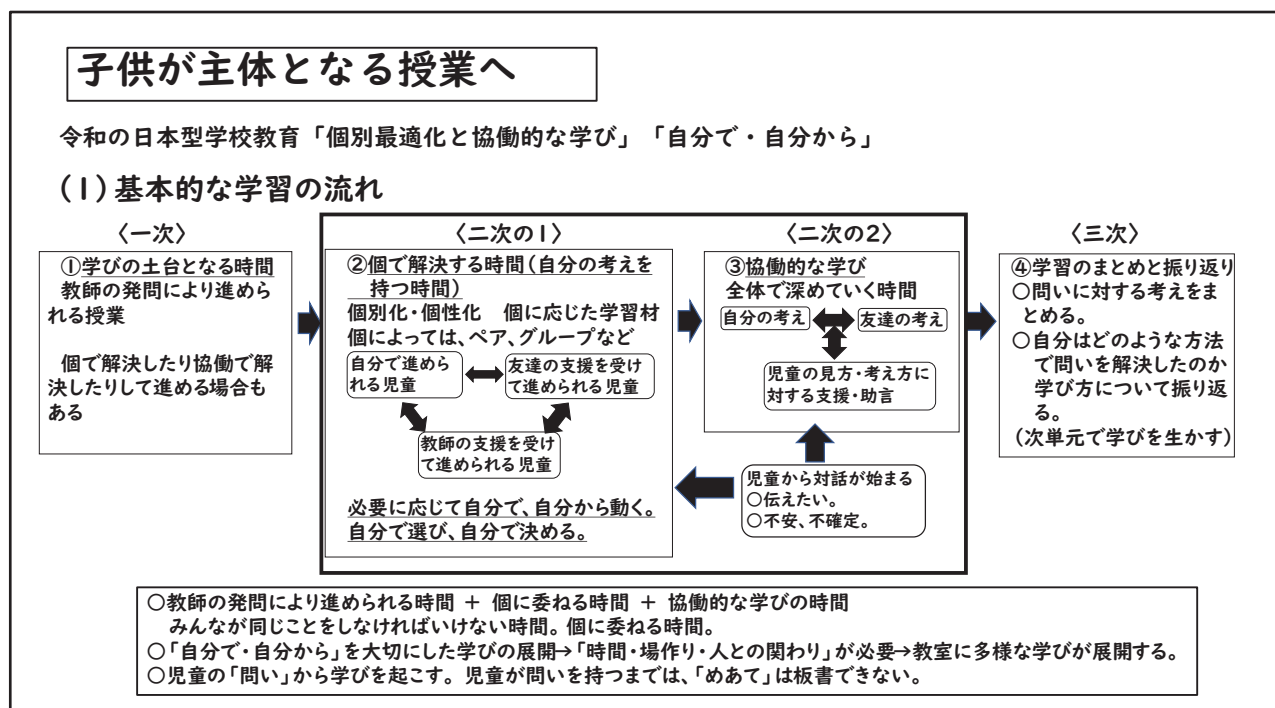
熊本県八代市立八千把小学校 吉本 清久

1 はじめに

現在4年生4クラスの国語の授業を担当している。4月当初は、机に伏せしている子供やぼんやり座っている子供がおり、学ぶ意欲に差が見られた。6月になり本学習「一つの花」が始まると、「先生、今日の国語は2時間目だよ。待っているよ。」と声をかけてくる子供がいるようになった。そして、「国語は楽しくなったかな？」と尋ねると、「はい。友達と考えを話し合うことが楽しいよ。」「先生もみんなの考えを聞くのを楽しみにしているよ。」と会話ができるようになった。

本稿では、子供の発言を大切にしながら個のものの見方・考え方をはぐくみ「個の読みをつくる」学びについて、実践の一端を紹介したいと思う。

2 子供が主体となる授業をつくるための単元デザインの工夫



子供が主体となる授業をつくるために単元デザインを工夫した。

〈一次〉学びの土台をつくる過程

教材についての基本的な情報を捉える。

- ①物語の設定を捉える。 ②粗筋を捉える。 ③全文シートに、現時点での自分の読みを書き込む。
- ④問いを立て、学習のゴールを設定する。

〈二次〉問いを解決する過程

個別最適化と協働的な学びを生かして、子供が主体となり自分の読みをつくる。

- ①自分で学び方を決めて問いの解決に取り組む時間を設定する。教師は、個の読みをさぐる。
- ②全体で問いの解決に取り組む時間。個及び全体の読みをつくる。

〈三次〉学習のまとめと振り返りの過程

- ①問いについて自分の考えをまとめる。(言語活動として設定した事項についてまとめる)
- ②どのようにして問いを解決したか自分の学び方・読み方を振り返り、本単元で獲得を図る資質・能力が身に付いたことを自覚する。そして、次学習や他教科等に生かしていけるようにする。

3 授業づくりの実際（4年 「一つの花」）

(1) 単元デザイン

過程	時間	学習内容	評価の観点等
一	4	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの土台をつくる。 ・全文通読をして、物語の設定と粗筋を捉える。 ・読み取ったことを全文シートに書き込む。 ・前話と後話を比べて、ゆみ子の変化を捉える。 ・問いを立て学習を見通す。 	【思①】 （ワークシート） ○物語の設定と粗筋を捉えている。
「一つの花」を読んで、心にのこったことを伝え合おう。 お父さんは、ゆみ子にどんな子どもにそだってほしいと思って「一輪のコスモスの花」を渡したのか。			
二	3	<ul style="list-style-type: none"> ○問いを解決する。 個の考えを持つ。→全体で問いを解決する。 ①お父さんは、どんな気持ちでゆみ子を「めちゃくちゃに高い高い」をしたのか。 ②出征をする前のお父さんの言動から、お父さんはどんな人か。 	★ 【知①】 （ワークシート） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句を捉えている。 ★ 【思①】 （ワークシート） ○登場人物の様子や行動、気持ちをもとに、お父さんの思いを捉えている。 ★ 【態①】 （対話の様子観察） ○対話を通して自分の考えを深めている。
	3	③お父さんは、ゆみ子にどんな子どもにそだってほしいと思って「一輪のコスモスの花」を渡したのか。	
三	2	<ul style="list-style-type: none"> ○問いの考えをまとめ、自分の学び方を振り返る。 ・問いの考え、心に残ったことをまとめる。 ・心に残ったことを伝え合い、自分の学び方を振り返る。 	★ 【思①】 （ワークシート） ○登場人物の様子や行動、気持ちをもとに、お父さんの思いをまとめている。 【態①】 心に残ったことを伝えようとしている。

(2) 授業の実際（子供が主体となる授業をつくる）

① 一次：学びの土台をつくる

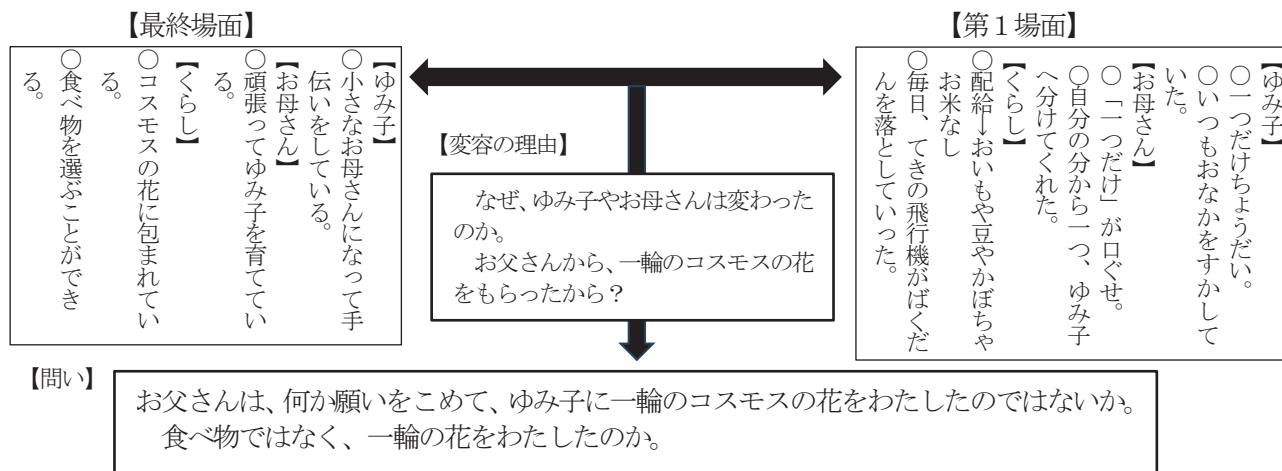
子供が主体となる授業をつくるには、問いの設定が重要である。教材文「一つの花」は、三人称客観視点で書かれており、人物の様子や行動は描かれているが、心情は直接描かれていないという特徴がある。子供は既習教材で「中心人物の心情の変化とその理由」を問いとしてきた。しかし、「一つの花」では問いを立てることが難しいことに気付いた。

そこで、次の手順で問いを立てた。

○第1場面と最終場面の「ゆみ子とお母さんの様子、二人のくらし」について比較して変容を捉えた。

○二人が変容した理由を考え、問いを引き出した。

子供は、お父さんが汽車に乗って出征する場面で、ふつうなら「お父さんは、一輪の花をにぎっているゆみ子を見つめながら。」と書くと思うけど、作者は「お父さんは、ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら。」と書いている。お父さんは、「一輪のコスモスの花」に何か願いをこめていると思う。それを考えたい。



② 二次：個別最適化と協働的な学びを生かして、子供が主体となり自分の読みをつくる。

これまでの授業を振り返ってみた。

○教師の論理（発問）によって読ませてきた結果、子供が自分の読みをつくる授業になっていなかった。教師の論理とは違う考えを持つ子供もいたと思う。

○授業を1単位時間で構成することで、子供が思考する時間を十分に保障していなかった。じっくり考える子供にとっては時間が不足していた。

○子供は「単元で身に付ける資質・能力が自分の読みの力として身に付いた。」という実感があつたのか。1単位時間の中で、個に委ねられる時間はわずかである。その時間で、資質・能力を意識しながら読むことができていたのだろうか。例えば「場面と場面をつなぎながら読む」とは、こんな読み方だと実感できて、自分の読みとして資質・能力が定着していたのだろうか？

⇩ (反省ばかりが頭によぎる)

そこで、本単元では、次のことに留意して「学び方の転換」を図りたいと考えた。

○子供が自分の読みをつくることができるように、子供の思考に寄り添い、読み方を支援する。

○個で学ぶ・友達と学ぶ・教師と学ぶなど自分に適した学び方を決める。

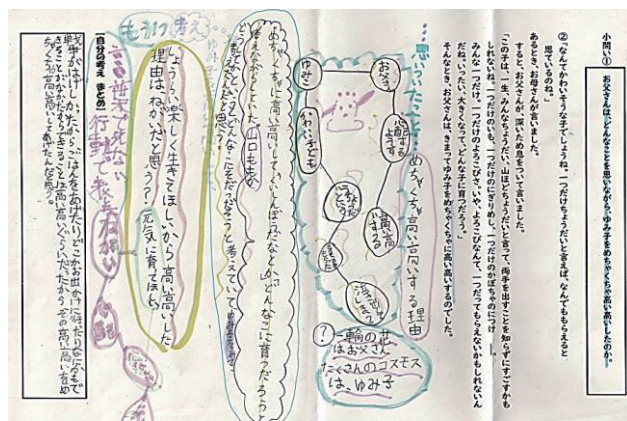
○習得を図る資質・能力を駆使しながら問いを解決して、自分の読みの力として定着するように、時間を保障する。

二次の1【個の考えを持つ】

子供の学び	教師の関わり
<p>自分の読み方を意識して学ぶ</p> <p>①既習の資質・能力を駆使して問いの解決に当たる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いついたことをシートに書き出し思考を見える化する。 ・多様な学び方を駆使して、粘り強く取り組む。 <p>②子供の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持つことができた。友達と考えを交流し深めたい。 ・考えを持つことができたがまだよく分からない。 ・分からない。納得いく解が見つからない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○習得を図る資質・能力を駆使しながら問いを解決する。</p> <p>○粘り強く自分の読みをつくらうとする。体験を重ねる。</p> </div>	<p>①個やグループの支援に当たり、どのように読みをつくらうとしているのか情報収集する。</p> <p>②読みが行き詰り悩む子供に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の思考に寄り添い読み方をアドバイスする。 ・読み方のヒントを与えてくれる友達を紹介し一緒に進めるように促す。 ・子供の思考を整理し、読みの方向性を提案する。 ・読みの新たな視点（本単元で身に付ける資質・能力）をアドバイスする。 <p>○個やグループの学び方を記録し支援に生かす。教師の考えを一方向的に教えるのではなく、子供の読みをつくる、育むことを大事にする。</p>



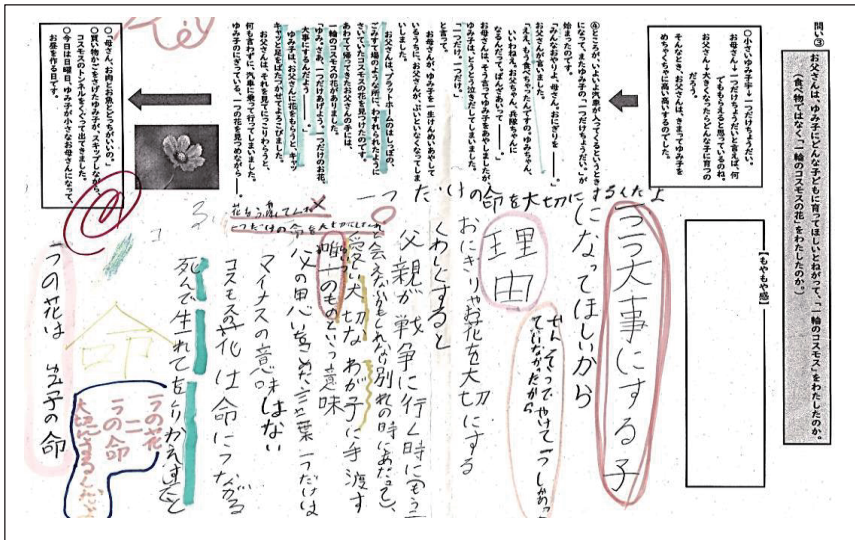
〈多様な学びの場が展開する〉



〈自分の考えを見える化したシート〉

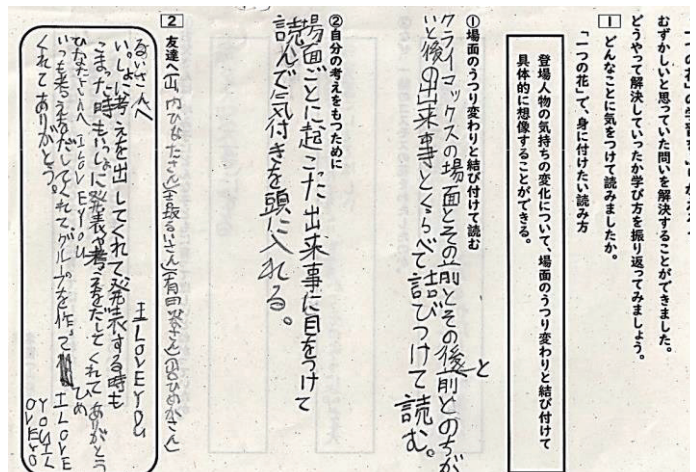
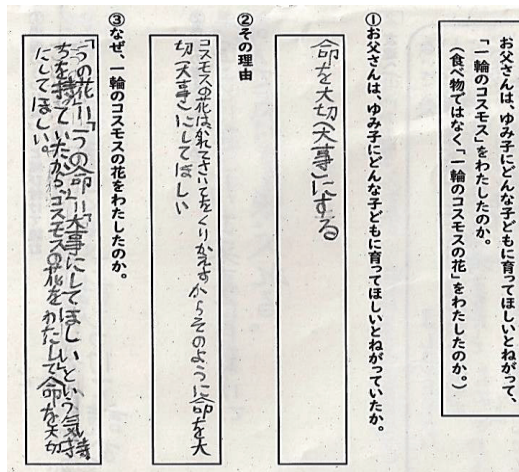
二次の2【全体で問いを解決する】

子供の学び	教師の関わり
<p>○個やグループの考えを出し合う。 多くの子供が発言できるように、事前に黒板に考えを板書する。</p> <p>○全体で考えを出し合い問いの解決を行う。 ・友達の発言を聞きながら、質疑応答を行う。 ・全体での対話、グループでの対話、個で考えるなど多様な学びを展開する。自分で選び自分から動く。 ・自分に必要な情報をメモする。</p>	<p>○子供の学びの様子がうかがえる所から、子供の発言を丁寧に聞き、「作戦メモ」を取りながら、適切な時を見つけて指導支援に当たる。</p> <p>○子供と伴走しながら指導支援に当たる。 ・子供の発言をメモしながら、子供がどのように読みをつくらうとしているか論理を捉える。 ・個への指導支援策、全体への指導支援策を考え支援する。 ・指導支援に当たっては、いつどのタイミングで行うか「教師の出」を熟考して行う。できるだけ子供の論理に寄り添いながら行う。</p>



全体で問いの解決を図る学習では、全体で・グループで・個で対話をしたり、タブレットで調べたりしながら自分の考えを深めていった。そして、自分に必要な情報をメモしていった。

子供は、本単元で身に付ける資質・能力「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する」を十分に体験した。そして、この資質・能力を自分の読み方に加えることができた。



〈自分の考えをまとめる（考え・根拠・理由付け）〉

〈学び方を振り返る（どんな読み方が身に付いたか）〉

4 実践を振り返って

本実践で、子供は何回も全文シートを読み返したり友達に相談したりして、自分の考えを持とうとした。これまで、自分の考えを書くことができずに学びに消極的だった子供が、A3シートの表裏にびっしり自分の考えを書き出した。そして、さらに考えを深めようと自ら友達や教師に相談する姿があった。私も子供が「自分の読みをつくる」ことのできる学びを展開するために、子供に寄り添い伴走する力を付けていきたいと思う。